

## 特集 古都をたずねる

倫・哲・独語 芋川平一

### 1. まえがき

春休みの修学旅行の準備がすすんでいる。関西への修学旅行というと、ぎっしりつまった日程表に従ってあわただしく京都・奈良と古寺・風物を追っかけて、くたびれて帰ってくるというのがよくある話である。モーレッツ日本人のモーレッツスケジュールがその原因であるが、その他に、事前学習の不十分さも大いに影響しているのではないだろうか。

一つの集団行動に参加する場合、受身の態度で臨むか、主体的・積極的に課題と取組むか、その態度如何によって、そのくたびれ方は全く違って来る。何をいかに把握して帰ってくるか——それは事前学習によって示唆されるのであるが——これは文化遺産を課題とする場合だけでなく、毎日の生き方にも関係していることなのである。

さて『ヒブリア』も、2・3年生の事前学習に合わせて、古都を主題に特集を組んでみた。各人各様に京都に——古都の代表として——スポット・ライトをあててみようというのである。また修学旅行をすでに終えた上級生にも、この際あらためて「古都、のもつ意味を考えて欲しい」と思っている。

### 2. “ふるさと”を求めて

関西旅行は、いわば古典の世界への旅立ちであり接触である。生活的・土俗的故郷に代わる精神的・知的故郷を求めての旅である。古典から何をくみるとるか、故郷から何を得てくるか、ひとさままでであるが、その相違にもかかわらず共通した何かが、そこにはある。一度や二度の訪問ではくみつくせぬ泉が、そこにはある。訪れる者の年齢や経験の深化に応じて底なしの魅力を現わしてくるものが、そこにはある。

しかも重要なことは、これらの文化財が、インカ帝国の廃墟でもなければポンペイの遺蹟でもないということである。現代の京都の人々が、日々生活を営み、生きている街なのである。昔の人々は歴史の彼方に立

ち去ったが、20世紀の現代人が、それらの遺産を継承し、生き継いでいるのである。かれらはいわば“歴史を生きている”のである。そこに古都の情緒が生まれ哀歎が生じるのである。

### 3. 京都は“日本のふるさと”か

しかし、現代の京都人は次のようにもいっている。「みんな日本を見ようと京都見物にくるんだが、日本文化の典型は東国ですね。関東じゃないですか。東京をつくったのは、まちがいなく日本やけど、京都は日本によってつくられたものではない。起源からいっても中国文明の移植ですからね」梅棹忠夫（京大教授・人類学）……「日本人の特性といわれるもの、京都にひとつもないですよ。ですけど、京都人的性格が本来の日本的性格だったんでしょねえ」林屋辰三郎（京大教授・日本史）……「京都人はコスモポリタンでねえ。タテ社会やなくヨコ社会ですな。サル社会とちがう。東京はサルの山みたいやけどね、ふふふ」今西錦司（岐阜大学長・人類学）……「日本は農民文化ですね。そのなかで京都だけが土くさきを克服したんですね。ですから、東京じゃ土の香がするということとはめてもらえるけど、京都人にとって土くさいといわれることは、この上ない恥辱なんですな。要するに京都は日本から浮きあがっているんですよ」会田雄次（京大教授・西洋史）——朝日新聞(47.1.12)“日本人、より

### 4. 古都の魅力

さて、日本文化の典型とは違うといわれる非日本の京都と、まぎれもない日本文化の“ふるさと”としての京都と、われわれはどちらの説に従ったらよいのだろうか。

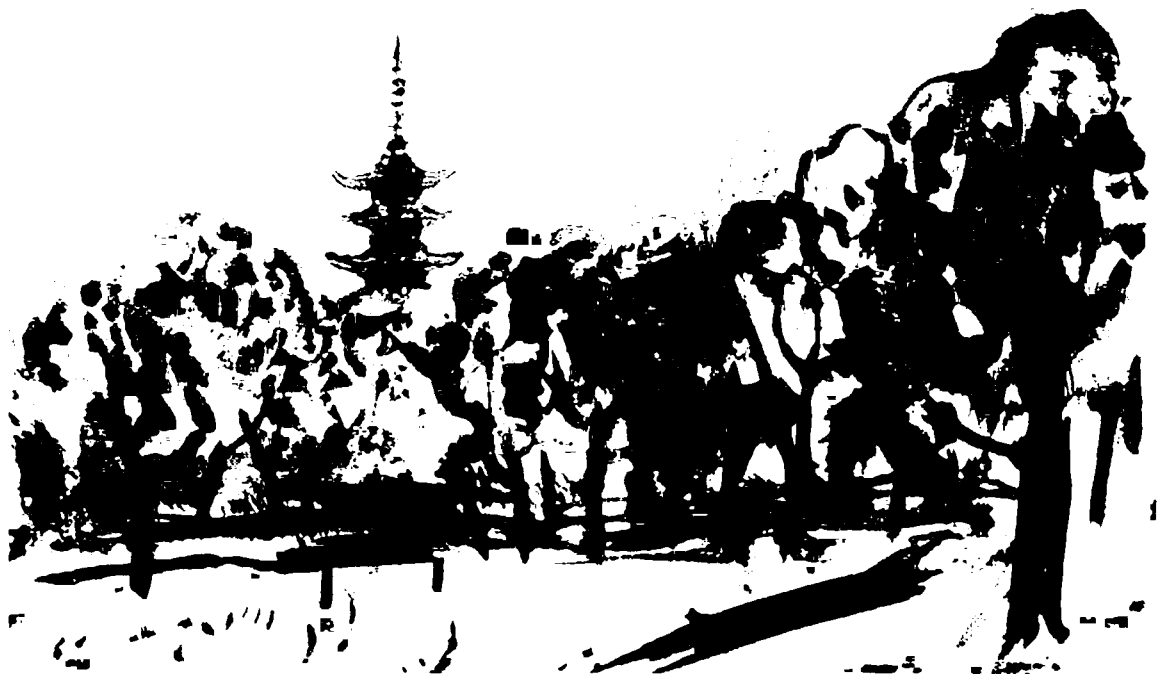
奈良をも含めて、古都文化を造りだした日本人とは一体何者だったのだろうか。有名な放火事件から再建された金閣寺をみるとき、そのキンキラキンのけばけばしさに、われわれはそれまでの金閣寺のイメージが壊されてがっかりしたものだが、考えてみると、それ

が造られた当時の金閣寺だったのである。古色をおびた建築物や仏像の数々、その「わび」と「さび」に、現代人は心のやすぎを求めるが、それは焼ける前の金閣寺に求めたのと同様、一種の虚像にかける幻想なのだろうか。

しかし、メッキがはげたら見るに耐えない古いものが多いなかで、古都の文化遺産が現代人の心に（外国人も含めて）訴えてくるものがあるということは、一体どう考えたらよいのだろうか。丁度、バイブルや仏典、ソクラテスや孔子の言が、われわれをひきつけるのと同じ意味で、それらが世界的な古典の世界に属する（古典の資格をもつ）からなのであろう。

そう思ってあらためて仏像をみた場合、古色の——そして宗教的偶像としての——ウェールの彼方に、物凄じばかりの古代人の知的エネルギーが秘められているのが判る。あまりにも均整のとれた完結したものとばかり思っていた古代の文化遺産が、到達点としての完成美ではなく、次の飛躍への出発点としての「美しさ」でありエネルギーでもあったことに思いあたるのである。

古いものを売り物にし喰い物にしている古都には魅力はない。しかし、古いものを造りだし、保持してきたエネルギーには、限りない魅力を感じるのである。



若松光一郎 東寺五重塔（東寺境内より）

## 日本のふるさとと京都

音楽（非常勤講師）若松 紀志子

古くは第三高等学校から京都帝大へ、今は京都大学に、遠く故郷を離れて遊学する（この言葉は私に大変気に入っているが今の人は文字通りに受取る危険性が多分にあるので……）多くの学生達、或いはその時代を過ぎた人々は誰もが（一人残らずと云っていい程）その古都の名に適わしい寂けさの中で、青春の哀歎をしみじみと味わえるところは、京都より他にはないと断言するのである。それは「ふるさと」と云う懐

しいことばにびったりする「青春のふるさと」と云う意味なのかも知れない。しかし寂しいかな、京都で生まれ乍ら女学校に入るまでしかなかった私には、京都は封建的で冷たく、意地悪く、決して好きにはなれない街であった。勿論「いて、さんじます」（行って参りますの意味）と赤い草履袋を下げて、小学校に通っていた私には、京都駅に近い父の店の直ぐ傍に見える「東寺」の文化的な意義の解ろう筈もなく、ただその境内の中の大銀杏の木の下で、そのはっぱの茎をお互いからませで、どちらが先に切れるか、誰のはっぱが一番強いかと、横綱、大関などと相撲のように打ち興じていた位の思い出しかない。しかし晩秋のぬけるように青い空にくっきりとそびえて、金色に映える大銀杏は、子供心に仏様の光を見る思いがしたの、やはり古い寺のムードに包まれていたからかもしれない

い。

先頃、若松が「京の冬の旅」と題して個展を開いたので、その時のスケッチをお目にかけます。彼の調べたところに依ると「東寺」は密教仏像の代表的なものが数多く、京都駅から西方に五重の塔を手近に眺めることが出来、その塔は市街の瓦屋根をとおして見るのが一番印象的であるらしいが、この図は境内の権の大木越しの逆光の風景である。鞍馬天狗決闘の場所もこの塔の下であったとか。確かにその時代をそのまゝに残しているところである。更にもう一枚「南禅寺の山門より」のスケッチがあるので、これに就いても少し話をつけ加えておきたい。

かの有名な大泥棒石川五右衛門が、その山門に登り「あ、絶景かな」と驚嘆したと云う言葉は有名であるが、まこと古き時代は長閑なものよと、それを見上げ乍ら思ったものである。左側の建築は都ホテル（京都最古のホテルで喰い道楽の父に連れられて、フランス料理にありつくのは私達姉妹の大きな楽しみであった）で近景の松の緑を透して市街を眺めることが出来五右衛門ならずとも、將に絶景かなの趣きがある。拝観料を払えば、今はいつでもこの山門の急勾配な階段をロッククライミングよろしく、ロープにつかまって上がることが出来る。丁度ビルの4階か5階の高さである。山門の上にはタミ敷きの仏間があり、圍り廊下から四方を眺めるわけである。京都に旅した折は、是非一度登って小手をかざし乍ら、五右衛門の心境になって頂きたい。南禅寺の湯豆腐も昔から有名で、その頃、法然院近くに住んでいた私は、その湯豆腐を食べに行ったかどうかよく覚えていないが、なめらかな肌のゆらゆらとかげろうのようにゆらく京都のお豆腐

には、いつも郷愁を感じる。

もう京都も観光都市になり切って、10日や半月歩き廻っても、仲々本当の姿に接することは出来なくなりましたが、かえって誰にも知られていない小さなお寺や、朽ちかけた庵の奥にいつまでも、じっとして動きたくないような、その冷たい寂けさの中に沈んで行ってしまいたいような魅力にとりつかれることがしばしばあるのは、幼い時には解らなかった本当の京都の良さが、この年になって自分のふるさと、と云うより、それは日本のふるさと、と云う意味で少しづつ解って来たのではないかと思われる。

その昔、祇園町の朝早く静かな町並で、細かい格子戸を手を真赤にし乍ら拭いている「おちよぼ」（11・2才の下働きの女の子）の姿、東山女專に通っている姉に連れられて市電で毎日チンチンゴーゴーと京都幼稚園に通っていた私が、その頃、はやりの髪切り＝けきり＝（女の人の長い髪の毛をばっさり切ってカモジ屋に売ると云う恐い男）がその中にいるのではないかと、しっかり姉の髪を握りしめていた汗ばんだ手の感触、1月、2月の厳冬には土の固い京都は、夜空に下駄の音かカランカランと湧えて、余計に寒く淋しさを感じたことも昨日のように思い出せるが、もう今では下駄の音などめったに聞けないだろう。

日本の古い街の良さがしみじみ解るのは晩秋から冬にかけてが一番のようだが、京都もそれにもれず12月の半ばが私は好きだ。2月、3月の寒さは殊のほかでスケッチ旅行に行った主人は「寒空での野外写生は文字通り禪の修業そのものだった」と、夜の京都のなまめかしさにも、ふやけずコチンコチンになって帰って来たのである。



若松光一郎  
南禅寺山門より  
京都市街を望む

# 「そば」と「うどん」

## — 修学旅行のまえに —

地理・世界史 原田 栄

旅をすると、「所変われば、品変わる」の言葉が実感としてわいてくる。山の形のちがひ、林相植物のちがひ、家屋の外形構造のちがひ、話す言葉のちがひなど数えあげればきりがなほ多くみられる。

このようなちがひは、その土地の顔のちがひである。

旅とは、所詮、このような土地の顔を発見することにはかならない。たとえ、その土地の心の内面まで理解し得なくとも、表面の顔を見ることによって、僅かでも心を汲みとることができるものである。

土地の顔には、他の土地と共通的なものもあるが、むしろ、他の土地にみられないその土地固有の顔を見出すことを問題にしなくてはならない。その固有の顔は、その土地の個性であり、地域性といわれる。旅の土産話は、えてしてこの地域性が主題となっていることが多い。それは、その人が旅に出ることによって未経験・未知なるものを体験・既知の観点から整理したものである。

ある地の地域性は、そこにある自然とそこに住む人間とが織りなしたものであり、総合的なものである。いわきにはいわきの地域性があり、日本には日本としての地域性がある。それは長い歴史の中で形成されたものでもある。

日本の社会は、二つの中心を軸として発展・展開してきた。その上限は江戸時代初期にさかのぼることができ、その歴史的影響はかなり大きいものがある。もちろん地域によっては、もっと古い時代にさかのぼることもできるし、影響のしかたが異なることはいうまでもない。

二つの中心とは、上方と呼ばれる、京・大阪などの西方のものであり、他は江戸と呼ばれる東方のそれである。こうして、関東風、江戸好みと上方風、京・大阪という二つの地域性があらわれてきた。

料理の味つけにしても、上方のはどちらかといえば薄味であるのに対して、江戸のそれはやや濃い味になっている。このような差異が、とりもなおさず地域性であり、歴史的経過の中に形成され、伝統的なものとなっている。気候・風土のちがひがもたらすものであり、その地に固定してしまうのである。

日本における、東と西の地域性はかなり異なるものがある。そうした両極分化とまではいかにしても地域的に差があることは、日本全体の地域性ともなっているのである。既知の事実としては、「りんご」と「みかん」・「じゃがいも」と「さつまいも」があげ

られる。これは栽培の気候条件の差異にもとづくものであることはいうまでもない。もっとも、上記の二例は南北の対比といってもよいかもしれないが、日本列島の配置からして東西としても許されるであろう。

「塩せんべい」と「八ッ橋」、「東男」に「京女」、「富士山」と「琵琶湖」、「武蔵野」と「嵯峨野」、「江戸城」と「二条城」、「赤坂離宮」と「桂離宮」、「洋画」と「日本画」、「洋服」と「和服」、「銀座」と「河原町」、「坂」と「川」。思いつくままに東西の特性を東京と京都に代表させて、そのイメージをあげたものである。このイメージは、変形変質変化するので必ずしも的を射たものではないかもしれないが、対比的相対的である点において東西の地域性ともなり得るものである。

この東西の地域性を端的に表現するとすれば、「華麗」と「優雅」につきるのではなからうか。たとえばせんべいの味についてのべれば、東は、草加せんべいにみられるような、塩味のきいたバリバリしたものであるのに対し、西は「八ッ橋」のように一種のみの味でなく、かみしめればかみしめるほど味がでてくるような奥行きが深いものが感じられるのである。

こうした差異は、善悪是非の判断基準にするのではなく、物事の両面としてとらえるようにしたいものである。そこの地につかわれた人間の営みを大切にする気持をもちたいものである。

修学旅行は、よその地の顔を自己がとらえることである。自己の未経験領域を経験領域に加えることによって自己形成の資とすることができ、自己啓発をすることであろう。

標題の「そば」と「うどん」の地域性をとらえてきてほしいものである。

## 「京都」について

……私の本棚から……

学生課長 西村 修 一

恵まれた風土と、すぐれた先人の文化的遺産に富んだ京都、歴史の宝庫ともいわれる「京都」に関する本は非常に多い。

しかし、「京都」に関する本を、私の本棚から取り出してみると約10冊程であって、貧弱であり、とてもこれらの本について書く資格はないし、はずかしい次第である。

最近、とくに京都を離れてからは、「京都」に関する本に興味をもつようになったことはたしかである。それは、京都が私のふるさとであると同時に、いままで気にもとめなかった京都の良さというものがわかってきたからかも知れない。

もともと本は嫌いな方ではないし、よく本屋をのぞいたりするが、まず第一に足の向くところは、「歴史関係」と「美術関係」の書棚で、「京都の……」という本を手にとって見る事が多く、また楽しい。

さて、「京都」についての出版物、つまり「京都の……」という題目の本はいろいろあるが、ごく簡単な観光案内の参考書から、ちょっと手の出ない豪華で、高価な総原色の美術書までたくさん並んでいる。私は観光案内的なものと、雑誌で「京都」特集号というものはあまり感心できないと思う。なぜならばそのようなものは、京都市観光局から発行している観光パンフレットでじゅうぶん間に合うと思うからである。

また、「京都」に関する本で気がつくことは、新聞社関係の編集によるものが多いことである。「朝日」「毎日」、地元紙の「京都」などの新聞社が発行し、あるいは編集している。これらは新聞の学芸欄などに、企画ものとして連載されたものをまとめて単行本にしたものであって、中には相常程度の高いものも見受けられる。Journalist の歯切れのよい文章で書かれ、読みやすく、しかも質的にも良いものがあると思う。少々古いが、毎日新聞社の「鴨川」などは、読物としても結構面白く、京都の鴨川の流にそって展開される史実を明らかにしてゆくなど、また京都新聞社からは、地元紙の強味を發揮して、写真に随筆をそえた「京都の仏像」、「京都百仏」、「京都・民家の庭」、「京都・傳説散歩」などがある。京都人でさえ知らなかったことが身近に見えてくるものもある。

Series ものとしては、駸々堂京都文庫の「京の老舗」、「京の酒」、「京にのこる味」、「平家物語の

舞台」など、写真と文章で興味をそえられる。

京都は歴史と不可分であり、四季折々の年中行事においても、これらの本を通じて発見してゆくことも楽しいものである。

専門的なものも著名な歴史家が多く執筆している。たとえば私が立命館で学んだ先生、中世史の林屋辰三郎氏、近世史の奈良本辰也氏、人文地理の藤岡謙二郎氏などの学術論文は貴重な史料である。

今、私の乏しい本の中から推奨したいと思うものは最も安く、かつ携帯にも便利な岩波新書「京都」林屋辰三郎著で、これには末尾に戦前、戦後に分けて、京都の主な文献案内までついている、よくまとまったものだと思う。

次に大判の本になるが、美しい写真が豊富な講談社版、日本の文化地理(10)「京都・滋賀」で、何度見ても見あきのしない本である。

朝日新聞社「歴史・京都・芸能」林屋辰三郎著も良い本である。また庭や造園に興味のある人には、前掲の「京都・民家の庭」などは容易に見ることのできない市井の民家の庭を写真で案内、觀賞させてくれる。

以上のほか、多くのすぐれた本があると思うが、私はそれらの本を通して京都を知りたいと思う。まだまだ知らないところがいっぱいある。実際に歩いてみたいとも思う。はやり言葉でいうならば Discover Kyoto である。

本年度は、2・3学年の学生諸君の関西方面への修学旅行が計画されている。ささやかな Reference service ともなれば幸いである。

## 新着図書目録

※印は図書館、他は各教官の研究室に所在

### 総記

世界の名著

- 58 ラッセル、ワイトゲンシュタイン  
ホワイトヘッド 中央公論社※  
朝日新聞総刷版 46-8 朝日新聞社※  
続々群書類従 第1 神祕部  
同 第8 地理部  
同 第12 宗教部  
同 第16 雑部  
続々群書類従完成会

日本新聞協会

- 日本新聞年鑑 昭46年度 電通  
続々群書類従 第6 法制部  
第11 宗教部  
続々群書類従完成会

既訂 中国古典選

- 1 易 朝日新聞社※  
2 論語 上 同 ※  
3 同 下 同 ※  
4 大学・中庸 同 ※  
5 孟子 同 ※  
6 老子 同 ※  
7 莊子 内篇 同 ※  
8 同 外篇 同 ※  
9 同 外篇・雑篇 同 ※  
10 史記 春秋戦国篇 同 ※  
11 同 楚漢篇 同 ※  
12 同 漢武篇 同 ※  
13 古詩選 同 ※  
14 唐詩選 上 同 ※  
15 同 下 同 ※  
16 三体詩 上 同 ※  
17 同 下 同 ※  
19 唐宋八家文 上 同 ※  
20 同 下 同 ※  
別巻 古典への道 同 ※  
18 宋詩選 同 ※  
本居宣長全集 13 筑摩書房  
古事類苑 22 政治部 4 吉川弘文館※  
同 49 雑論部 1 同 ※  
同 39 飲食部 同 ※

- 同 41 産業部 2 同 ※  
同 50 植物部 2 同 ※  
世界の名著  
62 ハイデガー 中央公論社※  
朝日新聞総刷版 46-9 朝日新聞社※  
大日本百科事典  
別巻 日本大地図 小学館 ※  
日本の名著  
12 山鹿素行 中央公論社※  
19 安藤昌益 同 ※

### 哲学

思想学説全集

- 1 ベルグソン 勁草書房 ※  
2 ハイデッカー 同 ※  
3 フォイエルバッハ 同 ※  
4 カント 同 ※  
5 ライブニッツ 同 ※  
6 アリストテレス 同 ※  
7 プラトン 同 ※  
8 レオナルド・ダ・ヴィンチ 同 ※  
9 ラッセル 同 ※  
10 マーシャル 同 ※

11 シェリング	同 *	無の思想	同 *	経営政策講座	
12 ヴェブレン	同 *	未木晴博		1 経済政策理論の展開	同 *
13 サルトル	同 *	東洋の合理思想	同 *	2 経済政策の史的展開	同 *
14 デカルト I	同 *	竹中恒常		3 現代経済政策の機能	同 *
15 同 II	同 *	日本人のタブー	同 *	4 現代経済政策と構造問題	同 *
小牧治 アドルノとその周辺	啓隆閣	横田健一		財政学講座	
司馬遼太郎		日本古代の精神	同 *	1 財政学原理	同 *
司馬遼太郎対談集	文芸春秋	佐藤幸治		2 財政政策の理論	同 *
日本思想大系		権のすすめ	同 *	3 日本財政の構造	同 *
67 民衆宗教の思想	岩波書店	久保田正文		4 現代資本主義と財政	同 *
岩波講座 哲学12		日蓮	同 *	日本教育年鑑 1972年版	教育新聞社 *
科学の方法	同	飯塚関外		講座 国際経済	
相場均 感覚の世界	講談社 *	禪のこころ	同 *	1 現代世界経済論	同 *
思田彰、野村健二		秋月龍珠		3 国際貿易	同 *
創造性の開発	同 *	道元入門	同 *	4 国際資本移動	同 *
島居直隆		藤本特次		5 帝国主義と後進国開発	同 *
イメージの心理学	同 *	マホメット	中央公論社 *	6 国際経済図説	同 *
ジョージ・ギャラリア		増谷文雄		講座 中小企業	
創造する頭脳	同 *	仏教とキリスト教の比較研究	友聖書房 *	2 独占資本と中小企業	同 *
日本の思想18		日本の仏教		佐藤其次郎	
安藤昌益、富永伸喜、三浦梅屋	同 *	1 初期の仏教	同 *	統計図表と分布図	古今書院
石田梅岩、二宮尊徳、海保青陵	同 *	2 聖賢の世界	同 *	三浦亨彦	
阿部次郎全集17	友聖書房 *	3 叢山の新風	同 *	労働科学入門	講談社 *
岩波講座 哲学	角川書店 *	4 人間の理々相	同 *	大田光、佐竹正夫	
13 文化	岩波書店 *	5 悲しき者の救い	同 *	欲望をつくる心理	同 *
14 芸術	同 *	6 本願念仏のえらび	同 *	中島朋夫	
中村元 原始仏教	日本放送出版協会 *	7 絶対神依の表現	同 *	ビジネスマン	同 *
望月信成		8 悪人正機の教え	同 *	中原勲平	
仏像 心とかたち	同 *	9 臨済の茶風	同 *	数術のすすめ	同 *
同 続・仏像 心とかたち	同 *	10 仏祖正伝の道	同 *	佐々木士郎二	
佐和隆研		11 仏道修行の用心	同 *	消費心理学入門	同 *
日本密教 その展開と美術	同 *	12 禪門の異流	同 *	渡辺孝 犯人を追う科学	同 *
紀野一義		13 予言者の仏教	同 *	松平誠 企業をのぼす情報管理	同 *
禅 現代に生きるもの	同 *	14 近代の仏教者	同 *	今坂明久	
増谷文雄		15 日本仏教のこころ	同 *	逆立ちする経営ピラミッド	同 *
仏陀	角川書店 *			加藤昭吉	
矢内草忠雄				計画の科学	同 *
キリスト教入門	同 *			豊原恒男	
阿部次郎		岩波講座 世界歴史29		職業適性	同 *
合本 三太郎の日記1	同 *	現代6	岩波書店 *	岸田純之助	
同 三太郎の日記 補遺2	同 *	藤岡謙二郎		現代の戦争	同 *
モンゴメリー・ワット		最新地理学辞典	大明堂 *	野田信夫	
ムハンマド	みすず書房 *	岩波講座 日本歴史		景気をつくる人びと	同 *
上田正昭		11 近世3	岩波書店 *	今坂明久、服部明	
日本神話の世界	創元社 *	12 同 4	同 *	コストダウンの科学	同 *
岩本崧 仏教入門	中央公論社 *	13 同 5	同 *	日本テレビ社会部	
田村秀朗		14 近代1	同 *	現代人の生活行動	同 *
法華経	同 *	ロマン・ロラン		中尾伸二	
権原猛 地獄の思想	同 *	マハトマ・ガンジー	みすず書房 *	コンピューター経営学	同 *
源了圓 義理と人情	同 *	村松剛 ユダヤ人	中央公論社 *	大坪権 技術者のための経営学	同 *
赤司道雄		原田伴彦		中島朋夫	
聖書	同 *	日本人町	講談社 *	電子計算機はこう使われている	同 *
大木英夫		河野健二		城功 創造的経営法	同 *
ビューリタン	同 *	福沢諭吉	同 *	安田一郎	
蛸田登之		岩波講座 日本歴史		日本人の性行動	同 *
肉食の思想	同 *	15 近代2	岩波書店 *	加藤昭吉	
矢内草伊作		16 同 3	同 *	計画の科学II	同 *
サルトル	同 *			A・パタースピー	
藤田健治				経営学入門	同 *
ニーチェ	同 *	講座 中小企業		関寛治 行動科学入門	同 *
田原嗣郎		1 歴史と本質	有斐堂 *	ウォール・ストリート・ジャーナル	
本居宣長	講談社 *	3 経営問題	同 *	21世紀の世界	同 *
な三郎三郎		4 労働問題	同 *	高瀬保 社会工学入門	同 *

## 歴 史

## 社 会 科 学

教育工学入門	同 *	電正人 対話宇宙探訪	同 *	同 II チョウの生活	
早野三郎		田中克己		同 III キリギリスの生活	
MIS開発入門	同 *	遺伝相談	同 *	同 IV 甲虫の生活 講談社 *	
大前義次		佐藤信 酒を楽しむ本	同 *	山口雅弘、塚崎真純	
グラフィックOR入門	同 *	相島敏夫、丹羽小弥太	同 *	科学歳時記	同 *
A・カウフマン		こんなことがまだわからない	同 *	野口達弥	
意志決定の科学	同 *	諏訪彰 火を喰く日本列島	同 *	高分子の科学	同 *
鈴木光彦		丹羽小弥太		F・P・シェパード	
図説 電子計算機システム	日刊工業 *	明日の技術革新のために	同 *	海の下の大陸	同 *
沼野一男		安田一郎		ジュリアン・ハクスリー	
教育工学	日本放送出版協会	SEX探究	同 *	進化とはなにか	同 *
野田信夫		野口寛国		後藤憲一	
経営美和辞典	ダイヤモンド社	あなたもアレルギー病	同 *	プラズマの世界	同 *
エドワード・テボノ		田多井吉之介		高橋長雄	
水平思考の世界	講談社 *	生活をあやつる神秘的リズム	同 *	からだの科学	同 *
C・J・Dodson		和田美夫		伊達宗行	
Language Teaching and the Bilingual		異常気象	同 *	物性物理学の世界	同 *
Method	Sir Isaac Pitman	高橋長雄		虎尾正久	
Ann Landers		小事典 からだの手帖	同 *	時とはなにか	同 *
Ann Landers Talks to Teen-Agers		E・マルデルシュテイン		早川幸男	
About Sex	Prentice-Hall	世界名作で学ぶ大脳生理学	同 *	進化する宇宙	同 *
<b>自然科学</b>					
エム・ペ・ネイマン		水野 隼 人間改造の医学	同 *	山森登 放射能	同 *
原子力入門	東京図書 *	野口達弥		アラン・アイザックス	
ヴェイ・マニコ		プラスチック時代	同 *	現代科学入門	同 *
ミクロの世界の謎	同 *	村山修美		大木幸介	
ア・フリードマン		昭和基地	同 *	量子生物学	同 *
空間と時間としての世界	同 *	飯島登 ガンを制す	同 *	海城工学会	
エス・イ・ヴァヴィロフ		村上省三		海洋工学入門	同 *
目と太陽	同 *	輸血	同 *	宇宙の手帖	同 *
エム・ワシリエフ		落合京一郎		都筑卓司	
人間は宇宙へ飛び出す	同 *	ホルモン	同 *	四次元の世界	同 *
ユ・イ・コリャーキン		浅野明 原色ミクロの世界	同 *	高野一夫	
原子の伝記	同 *	村上雅美		数学のあたま	同 *
エヌ・エリ・グリーンカ		再検査測定	同 *	ベーター・G・ベルグマン	
化学の問題と解法	同 *	ラルフ・E・ラップ		重力の謎	同 *
柳原二郎		ジェームズ・A・コールマン		S・トランスキー	
総数	朝倉書店	相対性理論の世界	同 *	光学の世界	同 *
小泉清明		野田春彦		力武常次	
川と湖の生態	共立出版	新しい生物学	同 *	なぜ磁石は北をさす	同 *
A・E・ハンフリー		古田昭作、牧野賢治		都筑卓司	
生物化学工学 上、下	東京大学出版会	世界を憂える現代化学	同 *	マックスウェルの悪魔	同 *
B・H・アーノルド		新編 一郎		S・ダイヤモンド	
トポロジー入門	共立出版	新しい物理学	同 *	統計に強くなる	同 *
中岡 位 位相数学入門	朝倉書店	崎川純行		都筑卓司	
大槻富之助		原色宝石小事典	同 *	不確定性原理	同 *
位相幾何	至文堂	枯木陶 科学・技術と日本人	同 *	萩原弘毅	
神原 高 高分子の世界	コロナ社	崎川純行		物理のpromナード	同 *
鬼頭史城		新しい化学	同 *	木村隼三	
満	同	大森昌衛		災害は変化する	同 *
坂本長太郎		よみがえる化石	同 *	宮本正太郎	
白い魅惑	講談社 *	高田方郎		宇宙とはなにか	同 *
飯島登 胃袋	同 *	救急医学入門	同 *	コンスタンス・レイド	
樺山政子		高野伸二		ゼロから無限へ	同 *
季節病カレンダー	同 *	原色・自然の手帖 野鳥	同 *	植葉三男	
東昇 ウィルス	同 *	同 同 昆虫	同 *	ベクトル ー現代数学へのアプローチ	
犬田充 池田道	同 *	佐竹義輔 同 野の花	同 *	本間仁、春日屋伸昌	
数字の読み方	同 *	竹村嘉夫 同 環の生物	同 *	次元解析・最小2乗法と実験式	同 *
松原志達		佐竹義輔 同 高山植物	同 *	山本荘毅	
動物の結構	同 *	竹村嘉夫 同 日本の鳥	同 *	陸水	同 *
坂井孝之、小枝一夫		片山泰久		小畑秀之	
生命を探検する	同 *	量子力学の世界	同 *	最新 図学	成山堂書店 *
		岩田久二雄			
		日本昆虫記! ハチの生活			

西山哲男	流体力学 I	日刊工業 *	E. W. Hobson	The Theory of Spherical and Ellipsoidal Harmonics.	Chelsea Publishing	岡地栄	活用機械英和辞典	工業調査会
武谷三男	科学入門 PSSC物理 下	勤草書房 * 岩波書店	Shan S-Kuo	Numerical Methods and Computers.	Addison-Wesley	桑原道義	自動制御工学	養賢堂
N. O. Smith	化学熱力学	東京化学同人	J. J. Stoker	Differential Geometry.	John Wiley	鈴木隆	自動制御理論演習	宇版社
原島群	高校課程 物理	養草房	Frederick Mosteller	Probability with Statistical Applications.	Addison Wesley	林達也	電子計算機のシステムプログラム	産報
宇田川詳久	精解演習 電気磁気学	広川書店	Melvin Hausner	A Vector Space Approach to Geometry.	Prentice Hall	空気調和・衛生工学会	給排水・衛生設備の実務の知識	オーム社
戸川幸人	数値計算入門	オーム社	Marcel W. Nathans	Elementary Chemistry.	Prentice Hall *	日本炭田団 I	常盤炭田地質図ならびに説明書	地質調査所
酒井孝一	群と位相	宝文館出版	Theodore L. Brown	General Chemistry.	Charles E. Merrill *	一等水濁点検測成果集録 第 1 巻 ~ 第 6 巻	地質調査所	
柴岡泰光	線形空間	養草房	Harry H. Sisler	College Chemistry.	Macmillan *	小袋典居	トランジスタ・パルス回路	産報 *
花井七郎	位相空間論入門	横書店	Marcel W. Nathans	Elementary Chemistry.	Prentice Hall *	藤森勉雄	やさしい超音波の応用	同 *
岩合一男	曲線・グラフ総習	聖文社	Marcel W. Nathans	Elementary Chemistry.	Prentice Hall *	片方清治	トランジスタビデオ回路の設計法	産報 *
佐藤武夫	災害論	勤草書房	Theodore L. Brown	General Chemistry.	Charles E. Merrill *	野沼儀秋	トランジスタOTL回路の基礎	産報 *
物理学論文選集	142 プラズマ診断法 155 ホログラフィー 164 問 II 165 プラズマにおける非線形現象 168 エレクトロニクス	日本物理学会	Harry H. Sisler	College Chemistry.	Macmillan *	同	トランジスタOTL回路の設計法	産報 *
新編物理学選集	39 超真空 Journalの論文をよくするために	同 日本物理学会	日本電信電話公社海底線建設事務所 海底線百年の歩み	電気通信協会 *		細田悦資	トランジスタデジタル回路	同 *
	宇宙物理 投稿の手引	同 同	旭硝子工業技術奨励会研究報告 vol. 16, 17			関口春哉	わかりやすい集積回路	同 *
J. L. シンジ	相対性理論の考え方	講談社 *	大谷南海男 金属表面工学	日刊工業 *		伊東祐彦	わかりやすいFM技術	同 *
石原藤夫	SF相対論入門	同 *	中野幸久	精密測定	同 *	木原信敏	ビデオレコーディング技術	同 *
坂元義男	短大・高専の化学	三共出版 *	石油化学工業協会 石油化学工業10年史	石油化学工業協会 *		ADSコボル研究課	わかりやすいプログラミング 2	産報 *
菊地真一	光化学	コロナ社 *	野口尚一	技術と人の中に	工学院大学 *	田中武二	わかりやすいプログラミング 3	産報 *
緒方惟一	新しい質量分析 化学と薬品の教室	化学同人 * 広川書店	日本機械学会講演論文集 No. 710-9 ~ No. 710-15	日本機械学会		竹下享	わかりやすいプログラミング 4	産報 *
半田隆	入門紫外・可視部吸収スペクトル	南江堂 *	Scientific American 材料の科学	共立出版		島津傳愛	レーザとその応用	同 *
Bruce H. Mahan	大学の化学 [I], [II]	広川書店 *	黒岩俊郎	新版 材料革命	ダイヤモンド社 *	小林貞男	半導体ICの使い方	同 *
茂木俊馬	現代天文学事典 天文年鑑 1972年版	恒泉社厚生閣 * 誠文堂新光社 *	長山四郎	陸軍 心象歩道	阿見社	緒綱国夫	基本コンピュータの設計	同 *
K. ノンデレスゾーン	絶対零度への挑戦	講談社 *	高橋茂	デジタル電子計算機	日刊工業	近藤敏一郎	COMとその周辺機器	同 *
久保理一郎	メカノケミストリー概論	東京化学同人	明治工業史 土木編	学術文獻普及会 *		千葉幸正	IC機器の設計	同 *
Bruce H. Mahan	大学の化学 [I], [II]	広川書店 *	日本工業用水協会 水処理実験法	コロナ社		瓜谷富三	わかりやすいME	同 *
茂木俊馬	現代天文学事典 天文年鑑 1972年版	恒泉社厚生閣 * 誠文堂新光社 *	坂部茂	大気汚染公害の防止技術	技報堂	井上武彦	わかりやすい周辺装置	同 *
K. ノンデレスゾーン	絶対零度への挑戦	講談社 *	研究和人	数値制御工作機械	大河出版	荒川潤益	電気技術者のための英語	学版社 *
久保理一郎	メカノケミストリー概論	東京化学同人	高橋茂	デジタル電子計算機	日刊工業	大阪科学技術センター	プログラム学習による基礎電子回路 I, II	大阪科学技術センター *
Bruce H. Mahan	大学の化学 [I], [II]	広川書店 *	明治工業史 土木編	学術文獻普及会 *		青藤正男	工学システムの基礎	昭見堂 *
茂木俊馬	現代天文学事典 天文年鑑 1972年版	恒泉社厚生閣 * 誠文堂新光社 *	日本工業用水協会 水処理実験法	コロナ社				
K. ノンデレスゾーン	絶対零度への挑戦	講談社 *	坂部茂	大気汚染公害の防止技術	技報堂			
久保理一郎	メカノケミストリー概論	東京化学同人	研究和人	数値制御工作機械	大河出版			

**工 学**



田中幸正	航空工学概論	地人書館 *	横山幸満	機軸の設計と加工	山海堂	ジェットエンジン理論	コロナ社 *		
水下降博	電気数学 I, II, III	オーム社 *	土質工学会	鋼グイー 鋼グイ研究会報告一		燃料油・潤滑油	海文堂 *		
原留美吉	半導体物性工学の基礎	工業調査会 *	鬼頭史城	キャビテーションの謎	オーム社	谷下市松	工学基礎熱力学	裳華房 *	
医枝雄	初等トランジスタ教科書	オーム社 *	有地誠	人工頭脳時代	講談社 *	不二越油圧研究グループ	知りたい油圧 基礎編	ジャパンマシニスト社 *	
伊藤忠電子計算サービス部	自習Fortran テキスト	共立出版 *	清水一	新住宅入門	同 *	仙改正花	歯車 第1巻	日刊工業 *	
M・V・ファリーナ	タイムシェアリング・プログラミング	培風館 *	佐育亦男	そこに宇宙があるからだ	同 *		JISハンドブック (機械要素)		
H・F・オルソン	音楽工学	誠文堂新光社 *	川口寅之輔	発明入門	同 *		同 (鉄鋼)		
ヴェ・ウ・ヤノフスキー	セラミックスの科学	東京図書 *	高橋裕	日本の水問題を考える	同 *	吉紀	機構学	コロナ社 *	
A・エム・ハーゼン	エレクトロニクスの物理 I, 2	同 *	植谷繁理	金属と人間の歴史	同 *	小川勝	潤滑油	海文堂 *	
エヌ・ソボレフ	レーザーとその未来	同 *	西村敏男	電子計算機	同 *	鈴木幸三、三・田賢次	図説基礎 材料力学 I	昭見堂 *	
ヴェ・ウ・サトキチ	二重法の秘密	同 *	岡本敦	新建材を生かす住まいの設計	同 *	横山亨	機械材料	コロナ社 *	
ユマ・クリュニコフ	ガラスの科学	同 *	朝日ジャーナル編集部	技術は突破する I 交通革命・情報革命	講談社 *		P・フェルサム	材料科学の基礎	アグネ *
土質工学会	実例による土質調査計画	土質工学会	朝日ジャーナル編集部	技術は突破する II 生活革命	講談社 *	川田雄一	材料試験	共立出版 *	
第6回土質工学研究発表会	(昭和46年度発表演義集)	同 *	青津一	企業をのび品質管理	同 *	内田秀雄	大学演習 伝熱工学	裳華房 *	
設計施工基準策定委員会	設計施工基準集 (設計編) 地中構造物	土質工学会	高岸清	カーデザイン	同 *	高橋安人	コンピュータによるダイナミックシステム論	科学技術社 *	
吉岡正三	金属組織学	コロナ社	朝日ジャーナル編集部	技術は突破する III エレクトロニクス革命・エネルギー革命	講談社 *	坪田英才	超小型コンピュータ入門	オーム社 *	
高橋安人	ダイナミックシステム論	科学技術社	奥村正二	バテント入門	同 *	味村重臣、岡田博彦	コンピュータシミュレーション	同 *	
マコヴェツキー	石油と石炭の化学	東京図書 *	佐瀬博	システムを創るエレクトロニクス	講談社 *	大森久人	図解フォートラン入門	日刊工業 *	
エヌ・アグフォーレン	金属と合金の本性	同 *	安田武	化学組織	同 *	高橋理	JISに準拠したFortran 基本コース、拡張コース	オーム社 *	
テン・ハルトーク	応用材料力学	裳華房	内田祥哉	ブレファブ	同 *	林毅	複合材料工学	日科技連 *	
吉沢武男	硬さ試験法とその応用	裳華房	レオン・パブリット	未来工学のビジョン	同 *	桑原道義	自動制御工学	裳華房 *	
ヴェ・カ・シチューキン	熱交換入門	東京図書 *	川口寅之輔	発明学	同 *	J・E・Gibson, F・B・Tuteur	自動制御要素	丸善 *	
化学工学協会	粉体装置工学	日刊工業	橋本尚	電気は強くなる	同 *	化学工業社	粉粒体の分級・選別	化学工業社	
工場操作シリーズ	4 改訂 熱交換器	化学工業社	R・マレイ・シュリー	独習フォートラン入門	同 *	電気製鋼研究会	特殊鋼便覧	理工学社	
9 貯槽・容器	同	同	清浦雷作	公害への挑戦	同 *	ペー・アー・フローニン	フローニンの土質力学 2, 3	森北出版	
10 濾過	同	同	桜建策研究所	建築入門	同 *		電力用変電設備ハンドブック	電気書院	
11 攪拌・捏和・混合	同	同	荒木晴・高橋昭	大気汚染の機器分析	化学同人	田中一	コンパイラ	森北出版	
12 過心分離	同	同	昭和46年電気四学会連合大会講演論文集	電子通信学会 *		日本金属学会	新編 転位論	丸善	
13 沈降・離層	同	同	手塚敬三	溶接講座 溶接の理論と設計	東京電機大学出版局 *	土木用語辞典編纂委員会	土木用語辞典	技報堂・コロナ社	
16 蒸留	同	同	近藤次郎	システム工学	丸善 *	神谷貞吉	特殊構造物 (II)	森北出版	
半沢手達	設問形式 フォートラン技法集	竹内書店	中山正和	技術者の創造性開発と訓練	日刊工業 *		構造力学	技報堂	
日本シェールワールド協会	シェールモールド鑄造法と金型設計	大河出版	寺田達	渦巻ポンプの設計と製図	理工図書 *		新編 転位論	丸善	
三輪茂雄	粉体のフルイ分け	日刊工業	内燃機関編纂委員会	内燃機関設計・構造図集	山海堂 *	須田教明	電磁波測定機	森北出版	
			大道寺達	内燃機関序論	丸善 *	ロンド・州議会	新都市の計画	筑島出版会	
			内燃機関序論	丸善 *			第350回講習会 内燃機関による公害とその		

対策 日本機械学会

海上保安庁水路部 昭和47年 天測暦 海上保安庁

奥村正二 パテント入門 講談社 \*

井上信雄 機械工学演習 力学 積善社

水野正夫 大学課程 工業力学 オーム社

斉藤浩一 アクメの資料によるプレス金型の設計 日刊工業

プレス便覧 丸善

上林茂夫 空電所設計入門 電気書院

橋本隆吉 鉄鋼の物性 I, II 朝倉書店

John Markus 電子回路大辞典 誠文堂新光社

E・A・Guillemin 回路網合成 上, 下 近代科学社

超電導ハンドブック 電気学会

工場配電 同

A・C・K・Smith 工業化学計算法 広川書店

岩流清雄 基礎工学I9 電磁気学III, 線形集中定数系論IV, 技術の体系 岩流書店

ハンディブック電子 オーム社 \*

山本勇 電子工学辞典 森北出版 \*

鈴木昇 テスタとオシロスコープ 理工学社 \*

Harold E・Babbitt Water Supply Engineering. McGraw-Hill

W・Flügge Handbook of Engineering Mechanics. McGraw-Hill

S・C・Lekhnitskii Theory of Elasticity of an Anisotropic Elastic Body. Holden-Day

Charles H・Norris Structural Design for Dynamic Loads. McGraw-Hill

Fracture Toughness Testing and its Applications. ASTM

Stress Corrosion Testing. 同

Plane Strain Crack Toughness Testing of High Strength Metallic Materials. ASTM

Harold E・Babbitt Water Supply Engineering McGraw-Hill

Electron Fractography. No 436, No 453. ASTM

Gus Turbine papers. Presented at Tokyo Joint International Gus Turbine Conference and Products Show. Oct. 4-7, 1971

The Japan Society of Mechanical Engineers.

David A・Mooney Mechanical Engineering Thermodynamics Prentice-Hall/ Maruzen

Paul L・Magill

Air Pollution Handbook McGraw-Hill

産 業

水野肇 農業亡国論 講談社 \*

小田正也 商品寿命 同 \*

白井祥平 真珠 同 \*

高田誠二 単位の進化 同 \*

都市交通講座 I 都市と交通 鹿島出版会

角本良平 都市交通 有斐閣

芸 術

ジュアン・ペルーチョ ジョアン・ミロとカタルーニャ 平凡社 \*

J・J・スティーニー ジョアン・ミロ 同 \*

奈良六次大観 第5巻 法隆寺五浮世絵 18 花鳥風景IV 現代の美術 9 構成する抽象 橋村耕雄 色彩入門 同 \*

G・K インダストリアルデザイン研究所 インダストリアルデザイン 同 \*

全集浮世絵版画 6 広重 集英社

大系世界の美術 18 近代美術 字研

浮世絵 19 花鳥風景V 毎日新聞社

現代の美術 10 記号とイメージ 講談社

現代スポーツ百科事典 大修館書店 \*

作田登 サークット・トレーニング入門 講義書 \*

語 学

田嶋大郎 英語正用法辞典 研究社

三省堂編修所 ドウダン区解英和辞典 三省堂

松村明 日本文法大辞典 明治書院 \*

John Eynon Multiple Choice Questions in English. Hamish Hamilton and S T George's Press

文 学

読解講座 現代詩の鑑賞

1 近代詩 I

2 同 II

3 現代詩 I

4 同 II

5 詩の指導 明治書院 \*

日本近代文学大系 51 近代社会主義文学集 角川書店 \*

全井源衛 王朝文学の研究 同

日本文学研究資料叢書 芥川龍之介 平安朝物語 I 古事記・日本書記 I 萩原朔太郎 島崎藤村 平安朝日記 I 歴史物語 I 永井荷風 方丈記・徒然草 堀辰雄 源氏物語 III 大修館出版

現代の文学 20 遠藤周作 28 大江健三郎 講談社 \*

筑摩世界文学大系 19 デカルト, パスカール 筑摩書房 \*

現代日本文学大系 46 宇野浩二, 広津和郎 同 \*

赤羽雪 芭蕉俳諧の精神 清水弘文堂

太宰治 太宰治全集 1~9 筑摩書房 \*

筑摩世界文学大系 61 トーマス・マン 同 \*

わが人生観 18 石川達三 大和書房 \*

日本近代文学大系 5 尾崎紅葉集 角川書店 \*

講座 日本文学 別巻 日本文学研究書目解題 三省堂

伊地知鉄男 佛蘭大辞典 明治書院 \*

久松潜一 現代日本文学大辞典 同 \*

現代日本文学大系 9 徳富蘆花, 木下尚江集 筑摩書房 \*

現代の文学 31 高橋和己 講談社 \*

筑摩世界文学大系 79 ウォーグリーン 筑摩書房 \*

現代日本文学大系 10 正岡子規, 伊藤左千夫, 長塚節集 筑摩書房 \*

現代の文学 13 安部公房 講談社 \*

筑摩世界文学大系 51 チューホフ 筑摩書房 \*

現代日本文学大系 78 中村光夫, 白井吉見 竹内好, 唐木順三 同 \*

芥川龍之介 芥川龍之介全集 1~8 別巻 同 \*

筑摩世界文学大系 60 リルケ 同 \*

現代日本文学大系 12 土井晩翠, 伊良子清白, 湯田泣菫 横瀬夜雨, 日夏耿之介, 瀧原有明 河井醉茗, 三木露風 筑摩書房 \*

明治文学全集 17 二葉亭四迷, 嵯峨の屋おしろ集 筑摩書房 \*